

創

—第 87 回—

あえて、オフラインで

先日、ある会にて30代とみられる女性から「私、市長のファンです！市長推しです！」との思いがけないお言葉をいただきました。私はただ啞然として口をパクパクしていたと思います（笑）

彼女曰く、別府は変わった。私たち世代が誇りに思えるまじになった。これからもワクワクすることを実行してください、と。

よく出来て当たり前、お叱りを受ける事が多い中、面と向かってこんな熱いメッセージをいただく事は少ないので、感動と嬉しきで幸せな気持ちになりました。たまには褒めてやってください（笑）。いやいや、言いたい事はそれではありません。

何と彼女から今度はわざわざお手紙が届き、更に熱い



別府市長
長野 恭紘

メッセージが。今は電話やメール、ライン等ですが、改めて直筆の手紙だからこそ『伝わり方』に感動したのです。温かさや人柄、伝えたい事の熱量は、やはり直筆に勝るものはありません。

最近話題のChat GPTを私も便利に使っていますが、情報伝達手段が進化すればするほど、『直筆』や『手紙』はさらに強みになるという事でしょうね。

文章作成段階でロボットの力を借り、それをどう使うか。それが相手の感情、成果を左右する。ますます進化するロボットと人との未来の関わり方の本質を見た気がしました。

（6月25日執筆）



フォトべっぷ



手話でつながる、心の輪—6月11日、福祉の増進や社会への理解を広げることを目的に「第71回全国ろうあ者大会inおおいた」が開催されました。約2,500人が参加し、式典では長野市長が手話を使って歓迎の言葉を述べました。



これからは大使として—阿南寿和副市長が6月25日付で退任し23日に辞令交付式を行いました。8年間副市長を務め、熊本地震からの復興やコロナ対策など長野市政を支えた功績を称え、ツーリズム別府大使に委嘱されました。



夢に挑め！球児たち—6月21日、別府市の中学生硬式野球チーム「別府ボーイズ」が、「エイジックカップ第54回日本少年野球選手権大会」の全国大会出場を決め、市長を表敬訪問されました。選手を代表して主将の帆崎さんが大会に向けての決意表明をしました。



共に築く社会—全国バリアフリーツアーセンター「別府サミット」が7月5日に開催されました。誰もが安心して旅行できる環境作りの実現に向け、各地のバリアフリーツアーセンターが活動内容を共有し、大変有意義なサミットとなりました。